

2025 年度 研究センター事業報告書

研究センター名	地域健康社会学研究センター
---------	---------------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究センターの実施した全ての研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこないできるだけわかりやすく記述してください。

1. 地域健康社会学プロジェクト研究の推進

寄付研究プロジェクト（2016 年 4 月発足）からの主旨を引き継ぎ、生活習慣病の疫学研究、住民の参加・協働による地域健康創出をめざす基礎的研究、歴史・実践研究、現状分析・方法開発の総合的な研究を、以下のように展開した（以下において、肩書は 2025 年度のもの）。

（1） 地域と健康についての研究の推進

成果一覧で示しているような多様な地域と健康に関わる諸研究を推進した。特記すべき研究としては、NIPPON DATA 研究（厚生労働科学研究費）がある。分担者である早川センター長が、滋賀医科大学三浦克之教授と連携し推進した。本研究は、1980 年、1990 年、2010 年の循環器疾患基礎調査、国民健康・栄養調査受診者、計約 18,000 人のコホート研究である NIPPON DATA を継続して、社会的要因、生活習慣、危険因子と生活習慣病発症・死亡リスク、健康寿命との関連を明らかにすることである。本研究センターでは、健康寿命に焦点をあて、日本人における長寿の要因を生活習慣や危険因子から疫学的分析を行った。死亡原因で「老衰」という死因があるが、これは 85 歳以上のいわゆる超高齢者に多く、具体的な死因特定できない時、もしくは長生きの結果、自然死に近い死亡の時につけられる。この特徴は、他国では見られない長寿社会である日本独自のものである。命尽きるまで生きて来れた要因を、これまでに続き今後も分析していく予定である。また、健康・ウェルビーイングに関わるコミュニティ形成、心理学的検討、刑務所医療体制、ケア論、脱暴力など、多様な研究を推進し、成果を公表した。

（2） 県、市町村におけるフィールドワーク、社会貢献

本研究センターの参加研究者は、専門的知識を活用し行政等の活動に貢献した。早川センター長は、2017 年度より「滋賀県データ活用事業プロジェクト会議」（滋賀県衛生科学センター）座長として、健康や医療、介護など滋賀県健康寿命延伸のための各種データを一体的に分析・活用し、市町や県における予防的取組みの推進に貢献している。また、滋賀県保健事業部会に学識経験者として参加し、助言を行った。2018 年度から滋賀県草津保健所が実施する「県南地域みんなでコラボ」事業において座長を務め、働き盛りの住民の健康をまもるために、県南地域の地域・職域の枠を超えて連携を具体化していく取組に貢献している。京都府下、滋賀県下の自治体にて、各種団体における講演依頼や委員委嘱依頼を積極的に受け、新たな研究展開のシーズを開拓している。他の参加研究者も、多様な組織において専門家として貢献した。

（3） 専門知識の発信

各メディアの特性を生かした独自の情報発信についても工夫や分析を行い、より効果的な情報発信に努めた。早川センター長は、センター当初より取り組んでいる地元ラジオ局の番組について、引き続き小学生目線で見た地域の高齢者への作文を発信し、作文に対して地域高齢者がコメントや感想を述べる相互コミュニケーションに努めている。この取組みの中で、高齢者・子ども・地域の役割を明らかにし、地域社会への貢献を行った。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2026 年 3 月 31 日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、必ず若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割		氏名	所属	職位
センター長		早川 岳人	衣笠総合研究機構	教授
運営委員		中村 正	産業社会学部	特別任用教授
		松田 亮三	産業社会学部	教授
		サトウタツヤ	総合心理学部	教授
		岡田 まり	産業社会学部	教授
		山口 洋典	共通教育推進機構	教授
		丹波 史紀	産業社会学部	教授
学内教員 (専任教員、研究系教員等)		小田巻 友子	経済学部	准教授
		三沢あき子	保健センター	教授
学内の若手研究者	専門研究員			
	研究員			
	初任研究員			
	補助研究員・リサーチアシスタント			
	大学院生	宮宇地 雄介	社会学研究科	博士課程後期課程
		橋詰 幸輝	社会学研究科	博士課程後期課程
	学振特別研究員 (PD・RPD)			
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・ 博士前期課程院生等)				
客員協力研究員		大倉 和子	明治国際医療大学看護学部看護学科	講師
		富澤 公子	立命館大学産業社会学部	非常勤講師
		日高 友郎	福島県立医科大学 医学部 衛生学・予防医学講座	講師
		西沢 いづみ	京都中央看護保健大学校	講師
		井上 英耶	滋賀県健康医療福祉部健康危機管理課	
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)		高山 一夫	京都橘大学経済学部経済学科	教授
センター構成員 計 17 名(うち学内の若手研究者 計 2 名)				

Ⅲ. 研究業績（公開項目） ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください(2026 年 3 月 31 日時点)。

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	中村正	脱暴力の臨床社会学	単著	2025 年 11 月	人文書院		総 390 頁
2	サトウ タツヤ	デジタル保健室——学校からひろがるケアリング・ムーブメント	単著	2026 年 3 月	紫洲書院学校での「居場所」と 保健室の意義	サトウタツヤ	114-132
3	サトウ タツヤ	Collected Papers II on Trajectory Equifinality Approach	単著	2026 年 3 月	Chitose Press	Tatsuya Sato	1-180
4	サトウ タツヤ	心理調査の基礎 改訂版	共 編 者 (共編著者)	2025 年 9 月	有斐閣	サトウ タツヤ, 鈴木直人	1-187
5	サトウ タツヤ	オートエスノグラフィー・マッピングー「私」からはじめる研究手法を知るための地図	共編者（共編著者）	2025 年 9 月	新曜社	土元哲平・桂悠介・サトウタツヤ	1-209
6	西沢いづみ	「人々の暮らしを舞台にした西陣の地域医療史—地域医療は町ぐるみから」	単著	2026 年 3 月	第 9 回『公衆衛生』	西沢いづみ	90 (3) :239-243
7	西沢いづみ	「人々の暮らしを舞台にした西陣の地域医療史—医療にかかれぬ人々に医療を」	単著	2026 年 2 月	第 8 回『公衆衛生』	西沢いづみ	90 (2) : 165-169
8	西沢いづみ	「人々の暮らしを舞台にした西陣の地域医療史—地域医療は町ぐるみから」	単著	2026 年 1 月	第 7 回『公衆衛生』	西沢いづみ	90 (1) :70-74

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	早川岳人	ロバスト重回帰モデルを用いた新型コロナウイルス感染症による死亡者数と救急搬送困難事例との関連解析および都道府県における救急搬送体制のアンケート調査	共著	2025 年 10 月	厚生労働統計協会、国民の指標、72(12)	井上英耶、小林亮太、早川岳人	7-12	有
2	早川岳人	Comprehensive Assessment of the Impact of Blood Pressure, Body Mass Index, Smoking, and Diabetes on Healthy Life Expectancy in Japan: NIPPON DATA90.	共著	2025, Aug.	J Epidemiol. 2025 Aug 5;35(8):349-354. doi: 10.2188/jea.JE20240298. Epub 2025 Jun 18.PMID: 39805597	Tsukinoki R, Murakami Y, Hayakawa T , Kadota A, Harada A, Kita Y, Okayama A, Miura K, Okamura T, Ueshima H.	349-354	有
3	早川岳人	Smoking is Associated With Impaired Long-term Quality of Life in Elderly People: A 22-year Cohort Study in	共著	2024 Jun (実際の公開は 2025 年)	J Epidemiol. 2024 Jun 5;34(6):265-269. doi: 10.2188/jea.JE20220226. Epub 2024 Feb 29.PMID: 37743531	Liu Y, Okamura T, Hirata A, Sato Y, Hayakawa T , Kadota A, Kondo K, Ohkubo T,	265-269.	有

		NIPPON-DATA 90.				Miura K, Okayama A, Ueshima H.		
4	中村正	臨床社会学の方法 (52)男性・男性性の 現在を把握する	単著	2026 年 3 月	対人援助学マガジン、16 巻 4 号(通 巻 64 号)		pp.21-31	無
5	中村正	臨床社会学の方法 (51) 暴力の文化は あなたに「呼びかけ る」	単著	2025 年 12 月	対人援助学マガジン、16 巻 3 号(通 巻 63 号)		pp.22-30	無
6	中村正	臨床社会学の方法 (50) Z 世代の可能性 —男性性ジェンダー、 脱暴力、アンラーン が交差するところ	単著	2025 年 9 月	対人援助学マガジン、16 巻 2 号(通 巻 62 号)		pp.21-31	無
7	中村正	臨床社会学の方法 (49) 「男性相談」か ら考える男性性ジェ ンダー問題へのアプ ローチ	単著	2025 年 6 月	対人援助学マガジン、16 巻 1 号(通 巻 61 号)		pp.22-31	無
8	松田 亮三	看護職員：文脈を ふまえた国際比較へ	単著	2026 年 1 月	東京：非営利・協同総合研究所い のちとくらしいのちとくらし研究 所報 (93)		2-9	
9	松田 亮三	拘禁刑時代の施設内 処遇(13)刑事収容施 設における医療：拘 禁刑下処遇におけ る同等性実現に向 けた改革への期待と 懸念	単著	2025 年 11 月	東京：日本評論社 法律時報 97(12)		128-133	
10	松田 亮三	候補性からみた医療 アクセス分析：そ の潜在的可能性	単著	2025 年 9 月	立命館大学産業社会学会立命館産 業社会論集 61(2)		83-92	
11	松田 亮三	書評と紹介 小笠原 信実著『韓国にお ける公的医療保険と 財政：医療の公共性 と社会保障財源』	単著	2025 年 4 月	町田：法政大学大原社会問題研究 所；大原社会問題研究所雑誌 / 法政大学大原社会問題研究所 編 (798)		56-60	
12	サトウ タツヤ	帰ってきた心理学の 縦横無尽 (3) 2025 年度前半期の文化心 理学ネットワーク、 ちょっとだけその他	単著	2026 年 3 月	対人援助学会対人援助学マガジン (62)	サトウタツヤ	76-86	
13	サトウ タツヤ	心理学史諸国探訪 [第 29 回]アフリカ 心理学史入門②	単著	2026 年 1 月	日本心理学会心理学ワールド (112)	サトウタツヤ	2	
14	サトウ タツヤ	TEA の知を生かした 混合研究法の実践 —質的研究法の発展 と量・質の相補的 理解を踏まえて—	単著	2025 年 12 月	日本混合研究法学会混合研究法 4(2)	サトウタツヤ	512-525	
15	サトウ タツヤ	心理学史諸国探訪 [第 28 回]アフリカ 心理学史入門①	単著	2025 年 10 月	日本心理学会心理学ワールド (111)	サトウタツヤ	2	
16	サトウ タツヤ	VR の本丸としての 心理学における質的 研究の流れ	単著	2025 年 6 月	日本バーチャルリアリティ学会誌 30(1)	サトウタツヤ		
17	サトウ タツヤ	TEM 体験型研修に おける設計要件の検 討—参加院生の学び を深めたプロセスか ら	単著	2025 年 6 月	日本教育工学会論文誌 49(2)	張曉紅・田中文 昭・浅瀬万里子・ 安田裕子・ サトウタツヤ	289-302	有
18	サトウ タツヤ	あるコスプレイヤー は何を目指して 13 年間コスプレを続け	共著	2025 年 5 月	TEA と質的探究学会 TEA と質的 探究 3(1)	福山未智, サ トウタツヤ	1-22	有

		てきたのか—— 永久の未完成という 発達過程を Auto- TEM で描く——						
19	サトウ タツヤ	心理学史諸国探訪 [第26回]トルコ②	単著	2025 年 4 月	日本心理学会心理学ワールド (109)	サトウタツヤ	2	
20	山口洋典	PBL の風と土：(36) 誰かに<行くんです か?>と言われた	単著	2026 年 3 月	対人援助学会, 対人援助学マガジ ン 61 号		163-168	無
21	山口洋典	臨床の知・輪唱の実 践	単著	2026 年 3 月	国際ボランティア学会, ボランテ ィア学研究 26 号		58	無
22	山口洋典	PBL の風と土：(35) 隣で<これ何ですか ね…>と言われたら	単著	2025 年 12 月	対人援助学会, 対人援助学マガジ ン 62 号		168-173	無
23	山口洋典	PBL の風と土：(34) 先生も<勉強するん だ…>と言われたら	単著	2025 年 9 月	対人援助学会, 対人援助学マガジ ン 63 号		173-178	無
24	山口洋典	PBL の風と土：(33) 学生に<機会があれば …>と言われたら	単著	2025 年 6 月	対人援助学会, 対人援助学マガジ ン 64 号		162-167	無
25	丹波史紀	真田は先生の思想と 実践	単著	2025 年 11 月	福祉のひろば ,2005 年 11 月号		PP. 38～43	無
26	丹波史紀	イタリアの災害復興 とボランティアの役 割 (後編)	単著	2025 年 7 月	福祉のひろば ,2005 年 7 月号		PP. 40～43	無
27	丹波史紀	イタリアの災害復興 とボランティアの役 割 (前編)	単著	2025 年 6 月	福祉のひろば ,2005 年 6 月号		PP. 24～27	無
28	小田巻 友子	多文化化する高齢者 ケアの実像—違いを 認め合い共に生きる ために—	単著	2025 年 6 月	くらしと協同	小田巻友子	(52),48-57 頁	
29	小田巻 友子	日本で暮らす外国人 とその家族の雇用・ 教育・ケア・食の問題	単著	2025 年 6 月	くらしと協同	小田巻友子	(52),29 頁	
30	井上英耶	ロバスト重回帰モデ ルを用いた新型コロ ナウイルス感染症に よる死亡者数と救急 搬送困難事例との関 連解析および都道府 県における救急搬送 体制のアンケート調 査	共著	2025 年 10 月	東京：厚生労働統計協会	早川岳人 小林亮太	p.7-12	
31	富澤公子	柳宗悦の民芸思想に みる「健康の美」と老 年学への示唆:「メチ ニコフの科学的人生 観」の視点を手がかりに	共著	2026 年 1 月	老年社会科学,47 巻 4 号	片岡 龍	pp.391-398	有
32	富澤公子	郷土菓子「かんころ 餅」にみる新上五島 町の文化と地域展望	単著	2026 年 1 月	国際文化政策,21 号		pp.81-96	有
33	富澤公子	健康長寿を生きる 奄美の人々と「大 島紬」：柳宗悦の民 藝思想を体現する工 人たち	単著	2025 年 10 月	『奄美学会ジャーナル』創刊号		pp. 27-31	無
34	富澤公子	与論島の「ヤーナー」 にみる風習と世代間 の繋がり意識:3 世代 の実態長をふまえて	共著	2025 年 8 月	国際文化政策,20 号	町 泰樹	pp .57-70.	有
35	日高 友郎	大学医学部の労働者 の認識する職場ダイ バーシティ推進ニー	共著	2026 年 1 月	日本産業衛生学会, 産業衛生学雑 誌, 68 巻・2 号	各務 竹康, 小宮 ひろみ	PP.55-64	有

		ズ:質的・量的方法を併用した断面研究						
36	Tomoo Hidaka,	Triggers of treatment interruption and resumption among individuals with type 2 diabetes: a narrative cross-sectional qualitative study	共著	2025 年 12 月	Taylor & Francis, International Journal of Qualitative Studies on Health and Well-being, 20 巻	Rieko Suzuki, Katsue Hashimoto, Mariko Inoue, Shota Endo, Takeyasu Kakamu, Mariko Gunji, Koichi Abe, Tetsuhito Fukushima	PP.1-12 (ページ番号は 2496181)	有

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	早川岳人	ラジオとアート	2025 年 10 月	対人援助学会第 17 回年次大会	中村正
2	中村正	ラジオと手紙-関係性のアートとして	2025 年 11 月	第 17 回対人援助学会、大阪キリスト教短期大学	企画
3	中村正	対人暴力の臨床社会学-男性の暴力加害の相談と対話をとおして-	2025 年 9 月	日本社会病理学会第 41 回大会、仙台大学	単独
4	中村正	社会課題としての差別への取り組み方-マイクロアグレッションから考えるマジョリティの特権	2025 年 6 月	国際理解教育学会大会、同志社大学	「みんなちがってみんないい」を問い直す-国際理解教育と多様性-シンポジウム登壇者として
5	中村正	「男性相談」から考える男性性ジェンダー問題へのアプローチ	2025 年 5 月	第 22 回フェミニストカウンセリング学会、ノートルダム女子大学	単独
6	Matsuda, Ryoza	From Normative Ideals to Policy Realities: Rethinking the Caring State". Paper presented at March 18, 2026, Yeonhui Hall 201, ,South Korea	2026 年 3 月	Navigating Triple Transitions: Seminar Series 3, Yonsei University	Matsuda, Ryoza
7	Ryoza Matsuda	Policy Responses to Child and Young Carers in Japan and South Korea: A Rapid Comparative Analysis (Preliminary Findings)	2025 年 12 月	"Social Policy Governance in East Asia—Balancing Growth, Demography, and Welfare" Workshop	Ryoza Matsuda
8	Ryoza Matsuda	Regulations, incentives, and persuasion: The multi-faceted policy development to restructure the healthcare delivery in Japan	2025 年 11 月	Trends and issues of social protection governance in East Asia	Ryoza Matsuda
9	松田亮三	家族主義的福祉政策におけるケアラー支援をめぐる課題——「京都市ケアラー支援条例」制定過程における当事者参画を事例として	2025 年 10 月	社会政策学会,第 151 回 (2025 年度秋季) 大会	斎藤真緒・松田亮三
10	Matsuda, Ryoza	The Politics of Hospital Sector Reform in Japan: Local Resistance and Policy Innovations	2025 年 7 月	The 28th World Congress of Political Science, Seoul	Matsuda, Ryoza
11	Matsuda, Ryoza	The 'discovery' of young carers: tracing the development of Japanese Policy responses	2025 年 7 月	The Social Policy Association (SPA) and the East Asian Social Policy Research Network (EASP)	Matsuda, Ryoza and Saito, Mao

				Joint Annual Conference 2025	
12	Matsuda, Ryoza	<i>Carer support in familialistic care regime: controversies surrounding the legislation of supporting young carers in Japan</i>	2025 年 7 月	The Social Policy Association (SPA) and the East Asian Social Policy Research Network (EASP) Joint Annual Conference 2025, University of York, the United Kingdom,	Saito, Mao. and Matsuda, Ryoza.
13	サトウタツヤ	ブライム刺激に文章を用いた感情誤帰属手続きの有効性の検討 ―ジェンダーステレオタイプを題材として―	2025 年 10 月	日本パーソナリティ心理学会第 34 回大会	◎辻絢加, 中田友貴, サトウタツヤ
14	サトウタツヤ	血液型性格関連説による少数派に対する偏見や差別の検討	2025 年 9 月	日本心理学会第 89 回大会	◎辻絢加, 中田友貴, サトウタツヤ
15	サトウタツヤ	タイトル 複線径路等至性アプローチ (Trajectory Equifinality Approach: TEA) ー応用編	2025 年 9 月	日本心理学会第 89 回大会	サトウタツヤ・安田裕子
16	サトウタツヤ	タイトル 複線径路等至性アプローチ (Trajectory Equifinality Approach: TEA) ー基礎編	2025 年 9 月	日本心理学会第 89 回大会	安田裕子・サトウタツヤ
17	サトウタツヤ	血液型性格関連説による少数派に対する偏見や差別	2025 年 9 月	日本心理学会第 89 回大会	辻絢加・中田友貴・サトウタツヤ
18	山口洋典	障がいのある就労者との協働実践を通じた学生の学びに関する一考察―大学内の日常業務と連携したサービスマーケティングの試み―	2026 年 3 月	国際ボランティア学会第 27 回大会	高橋結, 山口洋典
19	山口洋典	ボランティア学習におけるお礼状執筆を通じた自己形成促進に関する一考察	2026 年 3 月	国際ボランティア学会第 27 回大会	山口洋典, 高橋結
20	山口洋典	ボランティア学習のこれまでを俯瞰する	2025 年 11 月	日本ボランティア学習学会・第 28 回きょうと大会	山口洋典, 名賀亨, 小林洋司, 興梠寛
21	山口洋典	援助?いえ、好奇心ですー釜ヶ崎のココルーム/釜ヶ崎芸術大学の日々人生劇場	2025 年 10 月	対人援助学会第 17 回年次大会	上田假奈代, 山口洋典, 村本邦子
22	山口洋典	「アート」に基づいた質的研究ー研究と実践・芸術と社会の混交へのまなざしー	2025 年 10 月	日本質的心理学会第 22 回大会	鮫島輝美, 山口洋典, 岸磨貴子, アサダワタル, 山下里加
23	Hironori YAMAGUCHI	Facilitating Volunteerism for the 2024 Noto Earthquake Revitalization as Against the Drive for Institutionalization: Through Focusing on the S-O-R Relationship based on the “SOFAR Model”	2025 年 8 月	IARSLCE 2025 25th Anniversary Conference	Hironori YAMAGUCHI, Kazutaka YAMADA, Masamichi SHIGENO
24	Hironori YAMAGUCHI	The Gap between the Essence of Service-Learning in the U.S. and the Educational Practice Environment in Japan: Emerging Points from the <Service-Learning Essentials> Translation	2025 年 8 月	IARSLCE 2025 25th Anniversary Conference	Hironori YAMAGUCHI, Kazutaka YAMADA, Miki YAMASHITA , Atsuko KURONUMA

		and Read-Through Project			
25	山口洋典	災害時における総合型スポーツクラブの受援力発揮に関する一考察	2025 年 8 月	日本グループ・ダイナミックス学会第 71 回大会	山口洋典、山田一隆、滋野正道、武長理栄、荒尾裕子
26	丹波史紀	東日本大震災・原子力災害による広域避難者調査―中間報告―	2026 年 3 月	東日本大震災・原子力災害学術研究集会	高倉弘士
27	富澤公子	かんころ餅にみる新上五島町の文化レジリエンス	2025 年 12 月	働学妍研究会 ZOOM	
28	富澤公子	第三の人生の選択	2025 年 9 月	2025 年度国際文化政策研究教育学会秋季大会 ZOOM	
29	富澤公子	与論島の「ヤーナー（家名）」継承要因と今後への展望：奄美における与論の共通性と差異から考察する	2025 年 6 月	働学妍研究会 ZOOM	
30	日高友郎	放射性物質除染事業における国との連携で生じた自治体職員の心理的苦痛	2026 年 2 月	第 6 6 回産業精神衛生研究会	
31	日高友郎	復興からの疎外感を生む 2 種の時間：福島県大熊町民の経験を TEM と移境態で読み解く	2025 年 9 月	日本心理学会第 89 回大会	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	兵庫県東播保健師研修会, 「地域に責任を持つために保健師に必要な資質」	兵庫県高砂市	2025 年 6 月	110 名	兵庫県東播磨地区市町保健師協議会
2	あるファミリーホームの社会的養育実践	朱雀キャンパス	2026 年 2 月	30 名	一般社団法人 UNLEARN
3	第 8 回 福島原発事故からの復興に関する文化心理学研究会	福島県立医科大学 駅前キャンパス	2026 年 3 月	15 名	
4	第 2 回 福島テキストマイニング研究会	福島県立医科大学 駅前キャンパス	2025 年 12 月	15 名	福島大学サウンドスケープ研究室（永幡研）

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	早川岳人	コミュニティラジオ「拝啓おじいちゃんおばあちゃん」	コミュニティラジオ毎週土曜日	継続
2	サトウタツヤ	「知能検査」は子どもを伸ばすためにどう活用すべき？	東洋経済オンライン	2026 年 3 月
3	サトウタツヤ	複線径路等至性アプローチの基礎	愛知県立大学大学院特別講演	2026 年 3 月
4	サトウタツヤ	TEA（複線径路等至性アプローチ）ーオフィスにおける人生径路と課題解決を考えるためにー	第 26 回日本オフィス学会大会	2025 年 9 月
5	日高友郎	アクセプトされる科学論文の書き方のコツ	福島県栄養士会研究教育職域協議会研修会	2026 年 2 月
6	日高友郎	労働者の視点から「働きやすい職場」を実現するためのニーズ調査	福島県医師会産業医学基礎研修会	2025 年 9 月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	山口洋典	日本社会関係学会	第 4 回日本社会関係学会賞	集落＜復興＞	2026 年 3 月
2	山口洋典	日本 NPO 学会	第 23 回日本 NPO 学会賞・優秀賞	コミュニティ・デザイン論	2025 年 6 月

7. 科学研究費助成事業（科研費）

No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	中村正	関係コントロール型複合暴力と男性性ジェンダーの研究	基盤研究(C)	2024 年 4 月	2026 年 3 月	代表
2	松田 亮三	「ヘルスケア政策史研究」領域創成の基盤構築とアーカイブズ整備－PPI の実践と共に	挑戦的研究(開拓)	2023 年 6 月	2026 年 3 月	分担
3	日高友郎	共感的コミュニケーションの教育実装に向けた質的技法・機械学習による混合研究	基盤研究(B)	2026 年 4 月	2030 年 3 月	分担

8. 科研費を除くすべての外部資金（政府系、民間財団、民間企業との共同研究費等）						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	早川岳人	国民健康・栄養調査対象集団の新旧コホート研究における健康日本 21（第三次）推進のエビデンス構築：NIPPON DATA80/90/2010	令和 7 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金；循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策双方研究事業	2024 年 4 月	2027 年 3 月	分担
2	中村正	男性問題相談の理論と実践	京都府助成金	2025 年 4 月	2026 年 3 月	代表
3	中村正	家族再統合支援の実践と実装	大阪市・堺市助成金	2025 年 4 月	2026 年 3 月	代表
4	サトウ タツヤ	人文社会科学の復興知に基づく標葉地域の循環型共同教育の実践		2021 年 6 月	2026 年 3 月	代表者
5	日高友郎	持続可能な原子力災害復興のための移住者・帰還者の共生的コミュニティ創生を目指したネットワーク構築	環境省 放射線健康管理・健康不安対策事業（放射線の健康影響に係る研究調査事業）	2025 年 4 月	2028 年 3 月	分担

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人 区分	発明人 区分	出願番号	公開番号	登録（特許）番号	国